

2025 年度講義要項

(介護福祉学科 1 年生用)

トリニティカレッジ
出雲医療福祉専門学校

目 次

I. 授業日程表	1
II. 資格取得時の到達目標・求められる介護福祉士像	2
III. 人間と社会	
人間の尊厳と自立	5
社会の理解 I	6
社会人基礎力 I	7
IV. 介護	
介護の基本 I	11
介護の基本 II	13
コミュニケーション技術	14
生活支援技術（生活環境）	16
生活支援技術（基礎 I）	17
生活支援技術（基礎 II）	18
介護過程（基礎 I）	19
介護総合演習 I 在宅①	20
介護総合演習 I 在宅②	21
介護総合演習 I 施設①	22
介護実習 I 在宅①	23
介護実習 I 在宅②	24
介護実習 I 施設①	25
V. こころとからだのしくみ	
発達と老化の理解 I	29
認知症の理解 I	30
障害の理解 I	31
こころとからだのしくみ I	32
こころとからだのしくみ II	33

授 業 概 要

2025 年度

人間の尊厳と自立		講義	担当者	実務経験
			山根 真弓	
15 回	30 時間（2 単位）	1 年 前期	必修	
[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる為の基礎となる能力を習得する。 [授業の内容] 身近な具体的事象から人間理解を深め、人間の尊厳と自立の内容と必要性を概説する。また、介護福祉士として実践場面で必要となる、具体的方法と倫理的課題についても概説し、理解を深める。 [達成課題（到達目標）] ・人間の尊厳と自立について、その内容と必要性を説明できる ・尊厳を保持する具体的方法について説明できる ・自立・自律した生活を支える具体的方法について説明できる				
[授業計画] 1. 人間の尊厳と自立 人間理解と尊厳①「人間」の多面的理解 2. 人間の尊厳と自立 人間理解と尊厳②人間の尊厳 3. 人間の尊厳と自立 人間理解と尊厳③自立 4. 人間の尊厳と自立 人間理解と尊厳④自律 5. 尊厳と自立をめぐる歴史としくみ ①人権、尊厳と自立の思想 6. 尊厳と自立をめぐる歴史としくみ ②人権、尊厳と自立をめぐる歴史的経緯 7. 尊厳と自立をめぐる歴史としくみ ③人権、尊厳と自立に関する諸規定 8. 介護における尊厳の保持・自立支援①権利擁護 9. 介護における尊厳の保持・自立支援②アドボカシー 10. 介護における尊厳の保持・自立支援③人権尊重 11. 介護における尊厳の保持・自立支援④身体的な自立支援 12. 介護における尊厳の保持・自立支援⑤精神的な自立支援 13. 介護における尊厳の保持・自立支援⑥社会的な自立支援 14. 介護における尊厳保持と自立支援の実践 15. 筆記試験・まとめ				
[事前・事後学習の内容] ・講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・講義内容に関するポートフォリオを都度の締め切りまでに完成させる				
[教科書]			[成績評価の方法]	
『最新・介護福祉士養成講座 人間の理解 第2版』（中央法規）			筆記試験：70％・出席状況・課題提出：30％ ＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験対象	
[備考]				

授 業 概 要

2025 年度

社会の理解 I		講義		担当者	実務経験
				山根 真弓	
15 回	30 時間（2 単位）	1年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい]					
・介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険法と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する					
[授業の内容]					
・介護実践に必要な知識という観点から、介護保険法や障害者総合支援法を中心に、社会保障制度・施策についての基礎的な知識を概説し、理解を深める					
・利用者の権利擁護の視点、職業倫理を概説する					
[達成課題（到達目標）]					
・社会が個人の生活をどのように支援しているのか理解できる					
・介護実践に必要な諸制度に関する知識を習得する					
[授業計画]					
1. 介護保険制度の概要					
2. 介護保険制度①介護保険制度創設の背景					
3. 介護保険制度②介護保険制度創設の目的					
4. 介護保険制度③介護保険制度の動向					
5. 介護保険制度④介護保険制度のしくみの基礎的理解					
6. 介護保険制度⑤介護保険制度における組織の役割					
7. 介護保険制度⑥介護保険制度における団体の役割					
8. 介護保険制度⑦介護保険制度における専門職の役割					
9. 障害者自立支援制度①障害者自立支援制度創設の背景					
10. 障害者自立支援制度②障害者自立支援制度創設の目的					
11. 障害者自立支援制度③障害者福祉制度の動向					
12. 障害者自立支援制度 ④障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解					
13. 障害者自立支援制度⑤障害者自立支援制度のサービス概要					
14. 障害者自立支援制度⑥障害者自立支援制度における組織・団体の機能と役割					
15. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる					
・毎回実施する確認テストの内容を振り返り、間違った箇所は教科書やプリントで正解を確認しておく					
・講義 3～4 回に 1 度実施する単元テストに向け学習内容を振り返り、単元の内容を確認しておく					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 第 2 版』 (中央法規)			[成績評価の方法] 筆記試験：60%・単元テスト：30%・課題提出：10% *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

社会人基礎力Ⅰ		講義		担当者	実務経験
				担任	
30 回	30 時間（2 単位）	1 年 通年		必修	
[授業の目的・内容] 職場や地域社会において活躍する上で重要となる基礎的な能力である、社会人基礎力の習得を目指す。講義や演習などを通し、社会人として社会から求められる基礎的な素養や、自己の人生設計に関わる知識、社会人として望ましい姿勢や態度などを学ぶ。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・オリエンテーション ・自己の現在についての振り返り ・年金について ・情報リテラシーについて ・人権・同和問題について ・作文指導 ※内容については状況や必要性を考慮し、随時、変更や追加を行う。					
[事前・事後学習の内容] ・配布プリントの内容を確認し、不明点等ないようにしておく。					
[教科書] 配布資料等をもとに進める			[成績評価の方法] 出席状況等を総合して評価する。		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護の基本Ⅰ		講義・演習		担当者	実務経験
				樋口 真美	○
15 回	30 時間（1 年後期と合わせて 60 時間 4 単位）	1 年 通年（前期）		必修	
[授業の目的・ねらい]					
介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
[授業の内容]					
介護を必要としている人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基本的な考え方を学ぶ。人生１００年時代を迎える日本の福祉の中で介護福祉士の役割は何かを考えていける力をつけていく。					
[達成課題（到達目標）]					
・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題と捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する					
・介護を必要とする人の生活や個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。					
[授業計画]					
1. 介護福祉の基本となる理念 介護の成り立ち					
2. 介護福祉の基本となる理念 介護の概念の変遷① 1970 年代～介護サービスの量的拡充がはかられる・1980 年代～介護サービスの質的向上がはかられる					
3. 介護福祉の基本となる理念 介護の概念の変遷② 1990 年代～今日の介護実践における基本的な概念が整理される・2000 年以降～今日の介護サービスの基本的枠組みが整備され、介護概念が拡大する					
4. 介護福祉の基本となる理念 介護の基本理念					
5. 介護を必要とする人の理解 私たちの生活の理解① 生活とは何か・生活にとって大切な要素					
6. 介護を必要とする人の理解 私たちの生活の理解② 生活の特性					
7. 介護を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする人たちの暮らし① 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること					
8. 介護を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする人たちの暮らし② 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし・障害者の暮らし					
9. 介護を必要とする人の理解 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解① その人らしさ・背景					
10. 介護を必要とする人の理解 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解② 介護福祉における活用・生活ニーズの理解					
11. 介護を必要とする人の理解 生活のしづらさの理解とその支援① 生活のしづらさについて考える					
12. 介護を必要とする人の理解 生活のしづらさの理解とその支援② 日常生活から考える・支援					
13. 事例検討①					
14. 事例検討②					
15. まとめ 筆記試験					
[事前・事後学習の内容]					
教科書を読んでおく。配布したプリントや小テストを基に復習しておく。					
[教科書]				[成績評価の方法]	
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ 第２版』（中央法規）				出席日数・授業参加態度（30％）課題レポート（20％）前期試験（50％）	
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ 第２版』（中央法規）				※但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。	
[備考] 介護福祉士としての経験を持つ教員が、施設や在宅での現場の実情や課題等を、経験を踏まえながら講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

介護の基本Ⅰ		講義・演習		担当者	実務経験
				樋口 真美	○
15 回	30 時間（1 年前期と合わせて 60 時間 4 単位）	1 年 通年（後期）	必修		
[授業の目的・ねらい]					
介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
[授業の内容]					
介護を必要としている人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基本的な考え方を学ぶ。利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的に、計画的に提供できる基礎を学ぶ。					
[達成課題（到達目標）]					
・ 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。					
・ 介護福祉の専門職と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。					
・ ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。					
[授業計画]					
1. 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割① 地域包括ケアシステム・介護予防					
2. 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割② 医療的ケア・人生の最終段階の支援・災害時の支援					
3. 介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法					
4. 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士養成カリキュラムの変遷					
5. 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士を支える団体					
6. 介護福祉士の倫理 介護福祉士の倫理① 介護実践における倫理					
7. 介護福祉士の倫理 介護福祉士の倫理② 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応					
8. 介護福祉士の倫理 日本介護福祉士会の倫理綱領					
9. 自立に向けた介護 自立支援の考え方					
10. 自立に向けた介護 ICF の考え方					
11. 自立に向けた介護 自立支援とリハビリテーション① リハビリテーションとは・リハビリテーションの実際					
12. 自立に向けた介護 自立支援とリハビリテーション② リハビリテーションにおける介護福祉士の役割					
13. 自立に向けた介護 自立支援と介護予防① 介護予防の概念・介護予防の種類と特徴・高齢者の身体特性と介護予防					
14. 自立に向けた介護 自立支援と介護予防② 介護予防の実際					
15. まとめ 筆記試験					
[事前・事後学習の内容]					
教科書を読んでおく。授業内で配布したプリントや小テストを基に復習しておく。					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ 第2版』（中央法規）			筆記試験（80%）授業内レポート（10%）		
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ 第2版』（中央法規）			受講態度（10%※）※グループワークの積極性を評価		
[備考] <u>介護福祉士</u> としての経験を有する教員が、介護福祉士に求められる知識や技術、応用力を指導する。					

授 業 計 画

2025 年度

介護の基本Ⅱ		講義・演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
				畑岡 直樹	○
30 回	60 時間（4 単位）	1年 通年	必修		
[授業の目的・ねらい] ・「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。また、介護における安全やチームケア等について理解する [授業の内容] ・介護サービス実践の中心の場となる介護保険法を中心に、制度全体について概説する [達成課題（到達目標）] ・介護実践に必要な諸制度に関する知識を習得する					
[授業計画] 【前期】 1. 地域共生社会 2. 地域包括ケアシステム 3. 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 4. 障害者のためのフォーマルサービスの概要 5. 生活を支えるフォーマルサービスとは 6. 費用負担による区分 7. フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係 8. インフォーマルサービスの種類 9. インフォーマルサービスの提供者 10. 介護福祉士に求められる支援の視点 11. 生活を支えるインフォーマルサービスとは 12. 地域連携の意義と目的 13. 地域連携にかかわる機関の理解 14. 利用者を取り巻く地域連携の実際 15. 筆記試験・まとめ 【後期】 1. 利用者の生活を支えるしくみ① 2. 利用者の生活を支えるしくみ② 3. 事例検討 4. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるフォーマルサービス① 5. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるフォーマルサービス② 6. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるインフォーマルサービス① 7. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活を支えるインフォーマルサービス② 8. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 地域連携① 意義と目的 9. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 地域連携② かかわる機関・地域連携の実際 10. 協働する多職種の役割と機能 多職種連携・協働の必要性① 要請する社会の動き・なぜ、必要なのか 11. 協働する多職種の役割と機能 多職種連携・協働の必要性② 阻むものの・効果 12. 協働する多職種の役割と機能 多職種連携・協働に求められる基本的な能力① チーム作り 13. 協働する多職種の役割と機能 多職種連携・協働に求められる基本的な能力② 介護技術と知識 14. 協働する多職種の役割と機能 保健・医療・福祉職の役割機能 15. まとめ 筆記試験					
[事前・事後学習の内容] ・講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・毎回実施する確認テストの内容を振り返り、間違った箇所は教科書やプリントで正解を確認しておく ・講義 3～4 回に 1 度実施する単元テストに向け学習内容を振り返り、単元の内容を確認しておく					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ 第2 版』（中央法規） 『最新・介護福祉士養成講座 社会の理解 第2 版』（中央法規）		[成績評価の方法] 【前期】筆記試験：60％・単元テスト：30％ 課題提出：10％ 【後期】筆記試験：80％・授業内レポート：10％・受講態度：10％ ※受講態度には出席点を含む *但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする			
[備考] 介護支援専門員、施設ならびに居宅サービス事業所管理者としての経験を有する教員が、介護福祉士に求められる知識や技術、応用力を指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

コミュニケーション技術		講義		担当者	実務経験
				飯島 俊二	○
15 回 (1 年後期との合計 30 回)	30 時間 (1 年生後期との 60 時間で 4 単位)	1 年 通年 (前期)		必修	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 [授業の内容] 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助の為の、実践的コミュニケーションについて概説し、理解を深める。 [達成課題 (到達目標)] ① 介護におけるコミュニケーションについて理解し、重要性について話し合うことができる。 ② 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて、事例を通して学ぶことができる。 ③ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法を調べ、話し合うことができる。					
[授業計画] 1. 介護におけるコミュニケーションの基本①：介護におけるコミュニケーションの意義 2. 介護におけるコミュニケーションの基本②：介護におけるコミュニケーションの目的 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ① 3. 介護におけるコミュニケーションの基本③：介護におけるコミュニケーションの役割 自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法③ 2-1 4. 介護におけるコミュニケーションの基本④：利用者・家族との関係作り～レクリエーション活動の習得② 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①：利用者・家族とのコミュニケーションの実際 6. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②：話を聴く技法・利用者の感情表現を察する技法 7. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③：納得と同意を得る技法 (レクリエーション支援理論①) 8. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④：相談、助言、指導 レクリエーション支援立案の視点 1-4 9. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑤：意欲を引き出す技法～レクリエーション活動の習得③ 10. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑥：利用者本人と家族の意向の調整を図る技法 11. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際①：感覚機能が低下している人 (心の元気づくり理論①) 12. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際②：運動機能が低下している人 (心の元気づくり理論②) 13. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際③：認知・知覚機能が低下している人～レクリエーション活動の習得④ 14. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際④：事例検討・グループワーク レクリエーション活動の習得⑥ 2-2 15. 筆記試験(前期試験)・まとめ ※レクリエーション・インストラクター取得読替(2.3.4.7.8.9.11.12.13.14)					
[事前・事後学習の内容] 事前に指定した範囲を読んでおく。前回の内容を振り返る小テスト実施するので、復習しておく。授業内で示す課題についてレポートを作成する。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 第2版』(中央法規) 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 2017			[成績評価の方法] 筆記試験：90% 課題提出・出席・態度：10%		
[備考] 高齢者福祉の現場で日々サービス提供にあたる教員が、教科書を基にしたコミュニケーション技術の基礎と、現場での実践を基にしたコミュニケーション技術について講義する					

授 業 概 要

2025 年度

コミュニケーション技術		講義		担当者	実務経験
				飯島 俊二	○
15 回 (1 年前期との合計 30 回)	30 時間 (1 年生前期との 60 時間で 4 単位)	1 年 通年 (後期)		必修	
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 [授業の内容] 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助の為の、実践的コミュニケーションについて概説し、理解を深める。 [達成課題 (到達目標)] ① 記録の重要性について理解し、情報通信技術(IT)を調べ話し合うことができる。 ② 報告・連絡・相談の事例を通して学ぶことができる。 ③ 円滑なコミュニケーションを取るための基礎的な力を身につけることができる。					
[授業計画] 1. 介護におけるチームのコミュニケーション①：介護における記録の意義、目的 レクリエーション支援リスクマネジメントの視点 1-4 2. 介護におけるチームのコミュニケーション②：介護に関する記録の種類 レクリエーション支援リスクマネジメントの方法 1-4 3. 介護におけるチームのコミュニケーション③：記録の方法、留意点～レクリエーション活動の習得⑨ 4. 介護におけるチームのコミュニケーション④：記録の管理～レクリエーション活動の習得⑩ 5. 介護におけるチームのコミュニケーション⑤：介護記録の共有化(アイスブレイキング) 6. 介護におけるチームのコミュニケーション⑥：情報通信技術(IT)を活用した記録の意義(自主的、主体的に楽しむ力を育む、動機付けの心理的な仕組み) 7. 介護におけるチームのコミュニケーション⑦：情報通信技術(IT)を活用した実際(グループワーク) 8. 介護におけるチームのコミュニケーション⑧：情報通信技術(IT)を活用した実際、留意点 9. 介護におけるチームのコミュニケーション⑨：介護記録における個人情報保護信頼関係づくり・ホスピタリティ③・良好な集団・アイスブレイキング① 10. 介護におけるチームのコミュニケーション⑩：介護記録の活用～良好な集団づくりの方法② 11. 介護におけるチームのコミュニケーション⑪：報告の意義、目的～良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング③ 12. 介護におけるチームのコミュニケーション⑫：報告・連絡・相談の方法、留意事項 レクリエーション支援立案の方法 1-4 13. 介護におけるチームのコミュニケーション⑬：会議の意義、目的 レクリエーション活動の習得⑦ 2-2 14. 介護におけるチームのコミュニケーション⑭：会議の種類、会議の方法、留意点 15. 筆記試験(後期試験)・まとめ ※レクリエーション・インストラクター取得読替(1.2.4.5.6.9.10.11.12.13)					
[事前・事後学習の内容] 事前に指定した範囲を読んでおく。前回の内容を振り返る小テスト実施するので、復習しておく。授業内で示す課題についてレポートを作成する。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 第2版』(中央法規) 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 2017				[成績評価の方法] 筆記試験：90% 課題提出・出席・態度：10%	
[備考] 高齢者福祉の現場で日々サービス提供にあたる教員が、教科書を基にしたコミュニケーション技術の基礎と、現場での実践を基にしたコミュニケーション技術について講義する					

授 業 概 要

2025 年度

生活支援技術(生活環境)		演習	担当者	実務経験	
			樋口 真美		○※1
			藤江 隆明		○※2
22 回	68 時間 2 単位	1 年 通年	必修		
[授業の目的・ねらい]					
・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。 ・介護を必要とする利用者にとってよりよい食事とは何かについて学習し、食事に関する基礎的な知識の習得を目指す。 ・介護福祉士として、さまざまな家事の基本を学び介助を必要とする人の個性に対応出来る様に日常生活に必要な家事援助の知識、技術を習得する。					
[授業全体の内容の概要]					
・生活支援について概説する。 ・住環境の整備について概説する。 ・自立に向けた家事の介護について概説する。 ・健康の維持増進のための食事の意義と目的について押さえ、介護を必要とする利用者の食生活について概説する。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）]					
・生活者である利用者を支えることの意味を説明できる。 ・自立に向けた生活支援（環境整備）において、家事の介護において、具体的な事例をもとに他職種との連携のあり方を示すことができる。 ・福祉住環境コーディネーター資格の取得に必要な知識について説明できる。 ・住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基本的な知識を理解する ・食事の意義と目的について理解し、栄養と食事の基礎知識を習得し、「おいしく食べる事」を支える調理の工夫等について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 生活の理解		1. 自立に向けた家事の介護①食事の役割			
2. 生活支援① ベッドメイキング		2. 自立に向けた家事の介護②食べ物の栄養とバランス食について			
3. 生活支援② なじみの環境整備		3. 自立に向けた家事の介護③			
4. 居住環境の整備① 住まいの役割と機能		調理のプロセスとアセスメント、調理介助、調理の工夫や活用			
5. 居住環境の整備② 生活空間		4. 自立に向けた家事の介護④ 被服生活の基本知識			
6. 居住環境の整備③ 快適な室内空間		5. 自立に向けた家事の介護⑤ 被服生活の基本知識			
7. 居住環境の整備④ 安全に暮らすための生活環境		6. 生活支援の理解 事例検討①			
8. 居住環境の整備⑤ 高齢者・障害者の住まい		7. 生活支援の理解 事例検討②			
9. 事例検討		8. 生活支援の理解 事例検討③			
10. 実技試験、振り返り		9. 生活支援の理解 事例検討④			
11. 筆記試験、まとめ		10. 生活支援の理解 事例検討⑤			
		11. 筆記試験 まとめ			
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントや小テストを基に復習しておく。					
[教科書]		[成績評価の方法]			
『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ 第2版』（中央法規）		前期…筆記試験（70％）実技試験（30％）			
『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 第2版』（中央法規）		後期…筆記試験（80％）ボランティア（20％）			
[備考] ※1…介護福祉士としての勤務経験を有する教員が、高齢者の食事の基本的知識と調理、被服生活について指導する。					
※2…介護福祉士として勤務経験を有する教員が、生活環境の整備について基本的知識と技術を指導する					

授 業 概 要

2025 年度

生活支援技術(基礎Ⅰ)		演習		担当者	実務経験
				藤江 隆明	○
22 回	68 時間 (2 単位)	1 年 通年		必修	
[授業の目的・ねらい] ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・自立に向けた移動・身じたくの介護について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた移動・身じたくの介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ・自立に向けた移動・身じたくの介護の根拠について、説明できる能力を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 【前期】 1.自立に向けた移動の介護 自立した移動とは① 移動とは 身じたくとは 2.自立に向けた移動の介護 自立した移動とは② 移動の一連の流れ 一連の流れ 3.自立に向けた移動の介護 自立に向けた移動・移乗の介護① 車いす 基本 洗顔の介護 4.自立に向けた移動の介護 自立に向けた移動・移乗の介護② 車いす 応用 着脱の介護(前開き) 5.自立に向けた移動の介護 自立に向けた移動・移乗の介護③ 体位変換 着脱の介護(ズボン) 6. 自立に向けた移動の介護 自立に向けた移動・移乗の介護④ 移乗介助 着脱の介護（プルオーバー） 7. 自立に向けた移動の介護 自立に向けた移動・移乗の介護⑤ 歩行介助 着脱の介護（寝巻） 8. 自立に向けた移動の介護 移動における多職種との連携 9.自立に向けた移動の介護 事例検討① 口腔ケア 10.自立に向けた移動の介護 事例検討② 11.実技試験 筆記試験 まとめ 【後期】 1.自立に向けた身じたくの介護 自立した身じたくの介護① 2.自立に向けた身じたくの介護 自立した身じたくの介護② 3.自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護① 4. 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護② 5. 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護③ 6. 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護④ 7. 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護⑤ 8. 自立に向けた身じたくの介護 自立に向けた身じたくの介護⑥ 9. 自立に向けた身じたくの介護 移動における多職種との連携 10.自立に向けた身じたくの介護 事例検討 11.実技試験 筆記試験 まとめ					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ第2版』 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ第2版』（中央法規）			[成績評価の方法] 筆記試験（70％）実技試験（30％）		
[備考] 介護福祉士として勤務経験を有する教員が、移動・身じたくについて基本的知識と技術を指導する。					

授 業 概 要

2025 年度

生活支援技術(基礎Ⅱ)		演習	担当者	実務経験
			藤江 隆明	○
22 回	68 時間 (2 単位)	1 年 通年	必修	
[授業の目的・ねらい] ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] ・自立に向けた食事、入浴・清潔保持、排泄の介護について概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた食事、入浴・清潔保持、排泄の介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ・自立に向けた食事、入浴・清潔保持、排泄の介護の根拠について、説明できる能力を身につける。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 【前期】 1.自立に向けた食事の介護 食事の意義目的① 移動とは 2.自立に向けた食事の介護 食事の意義目的② 移動の一連の流れ 3.自立に向けた食事の介護 自立に向けた食事の介護① 基本原則 4. .自立に向けた食事の介護 自立に向けた食事の介護② 状態に応じた食事の介助 5 自立に向けた食事の介護 食事における多職種との連携 6.自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立した入浴・清潔保持とは 7.自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護① 入浴 8. .自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護② 部分浴（手浴） 9. .自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立に向けた入浴・清潔保持の介護③ 部分浴（足浴） 10. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の介護における多職種との連携 11.実技試験 筆記試験 まとめ 【後期】 1.自立に向けた排泄の介護 自立した排泄とは① 排泄とは 2.自立に向けた排泄の介護 自立した排泄とは② 一連の流れ 3.自立に向けた排泄の介護 自立に向けた排泄の介護① ポータブルトイレ 4.自立に向けた排泄の介護 自立に向けた排泄の介護② おむつ交換 5. 自立に向けた排泄の介護 自立に向けた排泄の介護③ 尿器・差し込み便器 6.自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種との連携 7.自立に向けた食事の介護 「おいしく食べる」ことを支える介護 季節に応じた間食① 計画 8.自立に向けた食事の介護 「おいしく食べる」ことを支える介護 季節に応じた間食② 実践 9.自立に向けた排泄の介護 事例検討 10 自立に向けた食事の介護 事例検討 11.実技試験 筆記試験 まとめ				
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。				
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ第2版』 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ第2版』 (中央法規)		[成績評価の方法] 筆記試験（70%）実技試験（30%）		
[備考] 介護福祉士として勤務経験を有する教員が、食事、入浴・清潔保持、排泄について基本的知識と技術を指導する。				

授 業 概 要

2025 年度

介護過程（基礎Ⅰ）		演習		担当者	実務経験
				山根 真弓	
15 回	30 時間（1 単位）	1年 後期	必修		
[授業の目的・ねらい]					
・他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う					
[授業の内容]					
介護を提供する対象者がどのような状態の方であれ、どのような生活場面であれ、個々の課題を理解し目標を定め、その目標を達成するための支援を導くためには介護過程という思考過程が必要である。この思考過程を概説する					
[達成課題（到達目標）]					
・介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であることを理解する					
・すべての介護の方法や手順には意味があり、それを説明できなければいけないことを理解する					
・介護過程を展開するうえで、どのように対象者を捉え、理解していくのか、またどのような項目について知る必要があるかを理解する					
[授業計画]					
1. 介護過程とは～思考過程の理解～		11. 情報の収集の整理・記入方法			
2. 介護過程の意義		12. 情報の収集の留意点・情報の抽出			
3. 介護過程の目的		13. 情報の解釈・関連づけ・統合化			
4. 介護過程の展開①介護過程のプロセス		14. 生活課題の明確化			
5. 介護過程の展開②介護過程の基本視点		15. 筆記試験・まとめ			
6. 利用者理解					
7. アセスメントの理解					
8. ICF の視点					
9. 情報の意味を考える					
10. 情報の収集方法					
[事前・事後学習の内容]					
・講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる					
・单元ごとに実施する演習シート・おさらい問題を振り返り、間違った箇所は教科書で正解を確認しておく					
・提示された課題に取り組み、必ず締め切りまでに完成させる					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護過程 第2版』 (中央法規)			筆記試験：70％・出席状況 10％・課題提出：20％ ＊但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験対象		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

介護総合演習Ⅰ 在宅①		演習	担当者	実務経験
			藤江 隆明	○
			山根 真弓	
13 回	25 時間（1 単位）	1 年 前期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] ・介護実習での学びが深められるよう、利用者理解（自立支援）、事業所（通所介護・訪問介護）、チームワークに関する知識を得る [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1.知識と技術の統合 オリエンテーション ～実習の意義と目的～ 2.知識と技術の統合 訪問介護事業・通所介護事業・通所リハ利用者の生活像 3. 知識と技術の統合 実習中の記録物の書き方Ⅰ（実習目標 在宅①） 4. 知識と技術の統合 実習中の記録物の書き方Ⅱ（出席表・実習日誌） 5. 知識と技術の統合 実習中の記録物の書き方Ⅲ（施設の概要） 6. 知識と技術の統合 実習の流れの理解 7. 知識と技術の統合 実習施設との事前調整 8. 知識と技術の統合 実習心得について 9 知識と技術の統合 .実習中の記録物の書き方Ⅳ（生活支援技術チェックリスト） 10.知識と技術の統合 反省会について（実習のまとめ） 11.知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅① ～実習前指導～ 12.知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅① ～実習後指導～ 13. 筆記試験、まとめ				
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。				
[教科書] ・『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 第2版』（中央法規） ・介護福祉実習要綱		[成績評価の方法] 筆記試験（90％） 出席（10％）		
[備考] 介護福祉士として勤務経験を有する教員が、実習について指導する。				

授 業 概 要

2025 年度

介護総合演習Ⅰ 在宅②		演習	担当者	実務経験
			藤江 隆明	○
10 回	15 時間（1 単位）	1 年 前期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業の内容] 介護実習での学びが深められるよう、利用者理解（自立支援）、施設や事業所、チームワークに関する知識と実践的な基本能力について概説する。自立に向けた家事の介助では、必要とする人の生活歴を重視し個別性を尊重し、幅広い生活上の援助が提供できるように、多種多様な家事のあり方を学習し、基礎となる知識を学習する。 [達成課題（到達目標）] ・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげる。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う				
[授業計画] 1. 知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅①の振り返りⅠ～反省点・困った点・疑問点・改善点等について～ 2. 知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅①の振り返りⅡ～評価表からの自己改善点について～ 3. 知識と技術の統合 在宅②実習の意義と目的・実習目標の理解 4. 知識と技術の統合 実習先の理解 グループホーム・小規模多機能型事業と利用者の生活像 5. 知識と技術の統合 実習中の記録物の書き方Ⅰ（実習目標 在宅②） 6. 知識と技術の統合 実習先の理解・実習メンバーの顔合わせ 7. 知識と技術の統合 実習施設との事前調整 8. 知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅② ～実習前指導～ 9. 知識と技術の統合 実習Ⅰ 在宅② ～実習後指導～ 10. 筆記試験・まとめ				
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。				
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 第2版』 （中央法規） 介護福祉実習要綱		[成績評価の方法] 筆記試験（90%） 出席（10%）		
[備考]介護福祉士として勤務経験を有する教員が、実習について指導する。				

授 業 概 要

2025 年度

介護総合演習Ⅰ施設①		演習	担当者	実務経験
			竹下 裕美	○※1
			藤江 隆明	○※2
16 回	40 時間（1 単位）	1 年 後期	必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けての心構え、予備知識、動悸づけ等の準備をおこなうことで効果的な介護実習が行える能力を身につける。 [授業全体の内容の概要] 実習の教育効果を上げるため、実習に必要な知識・技術・介護過程の展開を総合的に概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。個別ケアや多種多様なサービス形態のあり方を理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 実習Ⅰの振り返りと報告 2. 障害実習の意義と目的 3. 障害実習 自己目標の設定 4. 障害実習前指導 5. 障害実習後指導 6. 障害実習の振り返りと報告 7. 実習Ⅰ施設①の意義と目的 8. 実習Ⅰ施設①実習目標・実習先の理解 9. 実習Ⅰ施設①記録の書き方①日誌 10. 実習Ⅰ施設①記録の書き方②利用者情報 11. 実習Ⅰ施設①学びの整理・目標設定 12. 実習Ⅰ施設①事前訪問についての確認 13. 実習Ⅰ施設①実習先事前訪問 14. 実習Ⅰ施設①前指導 15. 実習Ⅰ施設①後指導 16. 筆記試験・まとめ				
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントを基に復習しておく。				
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 第2版』（中央法規）、介護福祉実習要綱		[成績評価の方法] 筆記試験（70%）、課題提出（20%）、出席・態度（10%） ※但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。		
[備考] ※1：看護師として勤務経験を有する教員が、実習について指導する。 ※2：介護福祉士として勤務経験を有する教員が、実習について指導する。				

授 業 概 要

2025 年度

介護実習Ⅰ 在宅①		実習		担当者	実務経験
				専任教員	
				実習指導者	○
—	36 時間（1 単位）	1 年	前期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う ・利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う ・他の職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う [授業の内容] 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う [達成課題（到達目標）] ・生活の場における利用者のプライバシーが尊重できる。 ・利用者とコミュニケーションができる。 ・適切な記録ができる。 ・様々な生活の場が理解できる					
[授業計画] — 訪問介護 — ・訪問介護事業に関するオリエンテーションを受ける ・利用者に関する情報について説明を受ける ・指導者と共に家庭を訪問し、利用者や家族とコミュニケーションを図る — 通所介護 ・ 通所リハー — ・通所介護 ・ 通所リハ施設の概要、機能、役割についてオリエンテーションを受ける					
[事前・事後学習の内容] ・学校で学んだ内容を実践に繋げることができるよう、教科書・プリント等を見直しておく ・日々の実習で出会った疑問点は早急に解決するよう自ら取り組む					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 第2版』（中央法規） 介護福祉実習要綱			[成績評価の方法] 別に定める実習評価表に基づき、成績評価を行う		
[備考] 介護職員として勤務する実習指導者が、実際の業務に基づいて介護福祉士に必要な知識・技能について指導する					

授 業 概 要

2025 年度

介護実習Ⅰ 在宅②		実習		担当者	実務経験
				専任教員	○
				実習指導者	○
—	54 時間（1 単位）	1 年	通年	必修	
[授業の目的・ねらい]					
・介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う ・利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う ・他の職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う					
[授業の内容]					
利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う					
[達成課題（到達目標）]					
・相手の立場に立って考えることができる ・利用者とコミュニケーションの工夫ができる ・利用者の日常生活行為を理解できる ・利用者の生活を支えているサービスを理解できる ・障害を持つ利用者を理解する ・障害者支援施設の役割を理解する					
[授業計画]					
・実習施設の概要、機能についてオリエンテーションを受ける ・施設内の見学を行う ・利用者とふれあう機会を多くもち、利用者のさまざまな需要を把握する ・障害者支援施設の概要・機能についてオリエンテーションを受ける ・施設内見学を行う ・自己紹介の場を提供頂き、利用者とふれあう機会をもつ ・介護が必要な方の生活の場として特徴を理解する ・介護福祉士がどのような役割を担っているのか理解する					
[事前・事後学習の内容]					
・学校で学んだ内容を実践に繋げることができるよう、教科書・プリント等を見直しておく ・日々の実習で出会った疑問点は早急に解決するよう自ら取り組む					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習第2版』（中央法規） 介護福祉実習要綱			別に定める実習評価表に基づき、成績評価を行う		
[備考]					
介護職員として勤務する実習指導者が、実際の業務に基づいて介護福祉士に必要な知識・技能について指導する					

授 業 概 要

2025 年度

介護実習Ⅰ施設①		実習		担当者	実務経験
				専任教員	○
				実習指導者	○
—	63 時間（1 単位）	1 年	後期	必修	
[授業の目的・ねらい] ・介護サービスを提供する対象・場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う ・利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う ・他の職種との協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う [授業の内容] 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行う [達成課題（到達目標）] ・常に利用者の意思を尊重できる ・利用者の状況に応じたコミュニケーションの工夫ができる ・指導を受けながら個別援助技術に記載された生活支援技術を行なうことができる ・指導者の助言を受けながら利用者の情報を収集することができる ・福祉施設における介護福祉士の役割を理解できる					
[授業計画] ・実習施設に関するオリエンテーションを受ける。 ・施設内の見学を行う。 ・職員の業務の実際を見学し、利用者に対するさまざまな日常生活援助を把握する。 ・指導者の指導の下に、1名の受け持ち利用者の情報を収集し整理する。 ・指導を受けながら個別援助計画に記載された生活支援技術を共に実施する。					
[事前・事後学習の内容] ・学校で学んだ内容を実践に繋げることができるよう、教科書・プリント等を見直しておく ・日々の実習で出会った疑問点は早急に解決するよう自ら取り組む					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 第2版』（中央法規） 介護福祉実習要綱			[成績評価の方法] 別に定める実習評価表に基づき、成績評価を行う		
[備考] 介護職員として勤務する実習指導者が、実際の業務に基づいて介護福祉士に必要な知識・技能について指導する					

授 業 概 要

2025 年度

認知症の理解 I		講義		担当者	実務経験
				山本 克哉	
10 回	30 時間（2 単位）	1 年 後期		必修	
[授業の目的・ねらい]					
認知症の医学的・心理的側面の基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。					
[授業全体の内容の概要]					
認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的知識、心とからだの変化について概説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①認知症の原因疾患やその症状について説明できる。					
②BPSD 発症のしくみと改善について、身体的・心理的・環境的誘因から説明できる。					
③地域におけるサポート体制と家族への支援について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 障害をかかえて生きることへの支援①認知症を取り巻く状況 これまで—今—これから					
2. 障害をかかえて生きることへの支援②認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解					
3. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア① パーソン・センタード・ケア					
4. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②					
認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール					
5. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ 認知症の人とのコミュニケーション、認知症の人へのケア					
6. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④					
認知症の人へのさまざまなアプローチ、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活					
7. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤ 認知症の人の終末期医療と介護、環境づくり					
8. 介護者支援、家族への支援					
9. 認知症の人の地域生活支援、連携と協働					
10. まとめ、筆記試験					
[事前・事後学習の内容]					
・教科書を事前に読んでおく。					
・配布した資料、確認プリント、小テストを復習する。					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 認知症の理解（第2版）』（中央法規）			筆記試験（80%）、課題提出・出席・態度（20%）		
			*但し、筆記試験の素点 60 点未満の者は再試験の対象とする。		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

発達と老化の理解Ⅰ		講義		担当者	実務経験
				馬 淵 芳 美	
11 回	30 時間（2 単位）	1 年 前期	必修		
[授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する [授業全体の内容の概要] 人間の成長と発達の基礎的知識、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の疾病と生活上の留意点について概説する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・人間の成長と発達の基礎的理解をふまえ、老化に伴う心身の変化の特徴について説明できる。 ・高齢者に多い疾病と生活上の留意点について説明できる。					
[授業計画] 【前期】 1. 人間の成長と発達の基礎的知識① 発達とは 2. 人間の成長と発達の基礎的知識② 成長・発達の原則 3. 人間の成長と発達の基礎的知識③ 成長・発達の要因 4. 人間の発達段階と発達課題① 発達理論 5. 人間の発達段階と発達課題② 発達段階と発達課題 6. 人間の発達段階と発達課題③ 身体的機能の成長と発達 7. 人間の発達段階と発達課題④ 身体的な成長・発達 8. 人間の発達段階と発達課題⑤ 疾病や障害の理解 9. 人間の発達段階と発達課題⑥ 心理・社会的機能の発達 10. 老年期の特徴と発達課題 老年期とは 老年期の発達課題 11. 筆記試験					
[事前・事後学習の内容] 教科書を読んでおく。配布したプリントをもとに復習しておく。					
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解 第2版 』（中央法規）			[成績評価の方法] 筆記試験（60%）、単元テスト（30%） 授業意欲・姿勢・出席状況（10%）		
[備考]					

授 業 概 要

2025 年度

障害の理解 I		講義		担当者	実務経験
				清原 圭介	○
15 回	30 時間（2 単位）	1年	前期	必修	
[授業の目的・ねらい]					
・ 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の基礎的な知識及び連携と協働について理解する ・ 障害のある人を支える家族への支援について、必要な知識を修得する					
[授業の内容]					
・ 障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を概説し、理解を深める ・ 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働について理解を深める ・ 障害のある人を支える家族の課題について概説し、家族の受容段階や介護力に応じた支援の理解を深める					
[達成課題（到達目標）]					
・ 介護実践に必要な障害者福祉に関する諸制度についての知識を習得する ・ 障害のある人の地域での生活を理解し、本人及び家族等への支援について理解する					
[授業計画]					
1. 障害の基礎的理解①障害の概念					
2. 障害の基礎的理解②ICF から ICIDH への変遷					
3. 障害の基礎的理解③障害者福祉の基本理念					
4. 障害者福祉に関する制度①障害者総合支援法の概要					
5. 障害者福祉に関する制度②障害者総合支援法利用のしくみ					
6. 障害者福祉に関する制度③障害者総合支援法のサービス：介護給付					
7. 障害者福祉に関する制度④障害者総合支援法のサービス：訓練等給付					
8. 障害者福祉に関する制度⑤障害者総合支援法のサービス：相談支援、自立支援医療、補装具					
9. 障害者福祉に関する制度⑥障害者総合支援法のサービス：地域生活支援事業					
10. 障害者福祉に関する制度⑦障害者の就労					
11. 障害者福祉に関する制度⑧障害者差別解消法					
12. 障害者福祉に関する制度⑨障害者虐待防止法					
13. 障害者福祉に関する制度⑩成年後見制度					
14. 障害者福祉制度と介護保険制度					
15. 筆記試験・まとめ					
[事前・事後学習の内容]					
・ 講義の最後に示す内容について、次回講義までに読んでくる ・ 確認テストの内容を振り返り、間違った箇所は教科書やプリントで正解を確認しておく					
[教科書]			[成績評価の方法]		
『最新・介護福祉士養成講座 障害の理解 第2版』（中央法規）			筆記試験：70％・課題提出：10％・出席・態度：20％		
[備考]					
言語聴覚士として勤務経験を有する教員が、障害者福祉の基礎的な知識について講義する。					

授 業 概 要

2025 年度

こころとからだのしくみⅠ		講義	担当者	実務経験																												
			竹下 裕美	○																												
30 回	60 時間（4 単位）	1 年 通年	必修																													
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。																																
[授業全体の内容の概要] こころのしくみ、からだのしくみについて概説する。																																
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ・人間の基本的な欲求やこころのしくみに関する基礎について理解できる。 ・生活支援のために必要とされる基本的な人体の構造や機能について理解できる。																																
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] <table><tr><td>【前期】</td><td>【後期】</td></tr><tr><td>1. 健康とは何か</td><td>1. 2. からだのしくみの理解 - 消化器</td></tr><tr><td>2. こころのしくみの理解 - 人間の欲求とは</td><td>3. 4. からだのしくみの理解 - 泌尿器</td></tr><tr><td>3. こころのしくみの理解 - 自己実現と尊厳</td><td>5. 6. からだのしくみの理解 - 骨・関節・筋肉</td></tr><tr><td>4. こころのしくみの理解 - こころのしくみの基礎</td><td>7. 8. からだのしくみの理解 - 生殖器、内分泌</td></tr><tr><td>5. こころのしくみの理解 認知のしくみ、学習記憶・思考のしくみ</td><td>9. 10 からだのしくみの理解 - 血液・体液・リンパ</td></tr><tr><td>6. こころのしくみの理解 - 感情・情動のしくみ</td><td>11. 移動に関連したこころとからだのしくみ 移動のしくみ</td></tr><tr><td>7. こころのしくみの理解 意欲・動悸づけのしくみ、適応のしくみ</td><td>12. 移動に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響</td></tr><tr><td>8. からだのしくみの理解 - 細胞・遺伝、脳・神経</td><td>13. 移動に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応</td></tr><tr><td>9. 10. からだのしくみの理解 - 感覚器</td><td></td></tr><tr><td>11. 12. からだのしくみの理解 - 呼吸器</td><td>14. まとめ</td></tr><tr><td>13. からだのしくみの理解 - 循環器</td><td>15. 筆記試験</td></tr><tr><td>14. まとめ</td><td></td></tr><tr><td>15. 筆記試験</td><td></td></tr></table>					【前期】	【後期】	1. 健康とは何か	1. 2. からだのしくみの理解 - 消化器	2. こころのしくみの理解 - 人間の欲求とは	3. 4. からだのしくみの理解 - 泌尿器	3. こころのしくみの理解 - 自己実現と尊厳	5. 6. からだのしくみの理解 - 骨・関節・筋肉	4. こころのしくみの理解 - こころのしくみの基礎	7. 8. からだのしくみの理解 - 生殖器、内分泌	5. こころのしくみの理解 認知のしくみ、学習記憶・思考のしくみ	9. 10 からだのしくみの理解 - 血液・体液・リンパ	6. こころのしくみの理解 - 感情・情動のしくみ	11. 移動に関連したこころとからだのしくみ 移動のしくみ	7. こころのしくみの理解 意欲・動悸づけのしくみ、適応のしくみ	12. 移動に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響	8. からだのしくみの理解 - 細胞・遺伝、脳・神経	13. 移動に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応	9. 10. からだのしくみの理解 - 感覚器		11. 12. からだのしくみの理解 - 呼吸器	14. まとめ	13. からだのしくみの理解 - 循環器	15. 筆記試験	14. まとめ		15. 筆記試験	
【前期】	【後期】																															
1. 健康とは何か	1. 2. からだのしくみの理解 - 消化器																															
2. こころのしくみの理解 - 人間の欲求とは	3. 4. からだのしくみの理解 - 泌尿器																															
3. こころのしくみの理解 - 自己実現と尊厳	5. 6. からだのしくみの理解 - 骨・関節・筋肉																															
4. こころのしくみの理解 - こころのしくみの基礎	7. 8. からだのしくみの理解 - 生殖器、内分泌																															
5. こころのしくみの理解 認知のしくみ、学習記憶・思考のしくみ	9. 10 からだのしくみの理解 - 血液・体液・リンパ																															
6. こころのしくみの理解 - 感情・情動のしくみ	11. 移動に関連したこころとからだのしくみ 移動のしくみ																															
7. こころのしくみの理解 意欲・動悸づけのしくみ、適応のしくみ	12. 移動に関連したこころとからだのしくみ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響																															
8. からだのしくみの理解 - 細胞・遺伝、脳・神経	13. 移動に関連したこころとからだのしくみ 変化の気づきと対応																															
9. 10. からだのしくみの理解 - 感覚器																																
11. 12. からだのしくみの理解 - 呼吸器	14. まとめ																															
13. からだのしくみの理解 - 循環器	15. 筆記試験																															
14. まとめ																																
15. 筆記試験																																
[事前・事後学習の内容] ・教科書を事前に読んでおく。 ・配布した資料、確認プリント、小テストを復習する。																																
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 第2 版』『最新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解 第2 版』（以上2 冊 中央法規）		[成績評価の方法] 筆記試験（80%）、課題提出・出席・態度（20%）																														
[備考] 看護師として勤務経験を有する教員が、人体の構造や機能、こころのしくみについて講義する。																																

授 業 概 要

2025 年度

こころとからだのしくみⅡ		講義	担当者	実務経験
			竹下 裕美	○
10 回	30 時間（2 単位）	1 年 後期	必修	
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 [授業全体の内容の概要] からだのしくみの基礎をふまえ、身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて概説する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①食事、入浴に関連したこころとからだのしくみについて理解することができる。 ②身じたくに関連したこころとからだのしくみ、変化の気づきと対応について理解できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ① 身じたくのしくみ 2. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ②心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ③変化の気づきと対応 4. 食事に関連したこころとからだのしくみ～食事のしくみ 5. 食事に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響 6. 食事に関連したしくみ～変化の気づきと対応 7. 入浴・清潔保持に関連したしくみ～入浴・清潔保持のしくみ 8. 入浴・清潔保持に関連したしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 9. 入浴・清潔保持に関連したしくみ～変化の気づきと対応 10. まとめ 筆記試験				
[事前・事後学習の内容] ・教科書を事前に読んでおく。 ・配布した資料、確認プリント、小テストを復習する。				
[教科書] 『最新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ第2版』（中央法規）		[成績評価の方法] 筆記試験（80%）、課題提出・出席・態度（20%）		
[備考] 看護師として勤務経験を有する教員が、食事、入浴、身じたくに関するこころとからだのしくみについて講義する。				